



齋藤友佳理 が語るバレエ・

オネーギンの 奇跡

第17回神奈川県国際芸術フェスティバル 神奈川県民ホール開館35周年記念

東京バレエ団

東京バレエ団創立45周年記念

オネーギン

県民ホール 瓦版

第77回舞台芸術講座 シリーズ・クラシックバレエの魅力(3)

齋藤友佳理 講演速報 ナビゲーター: 長野由紀
4月10日 於 神奈川県民ホール 6階大会議室

「友佳理は

タチヤリーナを

踊るべき」

それは

ベジヤールの

インスピレ-

シヨンが

きっかけであった。

ロシアの文豪プーシキンの悲恋物語を原作に、ジョン・クランコが振付したバレエ「オネーギン」。

伝説の女優バレリーナ、マリシア・ハイデにより、1965年ドイツのシュツットガルトバレエ団で初演された。映画を観るかのような美しい舞台と踊り、流麗な振付、チャイコフスキーの名曲の数々で、ドラマティックなバレエの傑作と称されている。

昨年パリ・オペラ座を退団したスーパースター、マニエル・ルグリも引退公演での上演を熱望したなど、バレエダンサーたちには一度は踊ってみたいと思わせる、特別な作品である。

日本のバレエ団としても今回初めての上演となるが、これまでの道のりには、様々な奇跡的ドラマがあった。

斎藤友佳理がバレエ「オネーギン」と出会ったのは、振付家モーリス・ベジャールの言葉がきっかけであった。

88年、「舞楽」という作品を創るために、斎藤はベジャールの本拠地ローザンヌに三週間近く滞在し、親交を深めた。翌年、ベジャール、ジョン・ノイマイヤー、イリ・キリアン作品が同時上演される公演があり、ベジャールは、ノイマイヤーが東京バレエ団に振付けた「月に寄せる七つの俳句」を踊る斎藤を見て、「友佳理は（ジョン・クランコ振付「オネーギン」第3幕）タチヤーナの手紙のパ・ド・ドウを踊るべきだ。」と、東京バレエ団団長、佐々木忠次に告げたのだった。このことにより、斎藤はバレエ「オネーギン」を強く意識するようになる。当時、彼女はこの作品について深く知らなかったと言うが、翌90年にボリショイバレエ団プリンシパルであったニコライ・ウードロフと結婚、ロシアで暮らすようになり、ロシア国民が愛するプーシキンの「エフゲニー・オネーギン」とも出会ったこととなる。

バレエ「オネーギン」は、2人の天才芸術家が生み出した。

バレエ「オネーギン」は、ロシアの文豪プーシキンの「エフゲニー・オネーギン」を題材にしているが、この作品はプーシキンとともに、ロシア国民に深く愛されている特別なものであるという。

この作品の魅力として斎藤が語るのは、ただの悲恋物語にとどまらず、タチヤーナという女性を通してロシアの歴史、生活がすべて描かれていることである。

また、たくさんのロシア人が、この作品を暗唱できること、そしてヒロインのタチヤーナという女性像（運命を受け入れつつ、自分の人生を力強く生きていく地に足の着いたリアリスト）を理想としていることなどを語った。

そのタチヤーナ像に対し、オネーギン像は、生前のプーシキンに重なる部分が多いという。

ジョン・クランコは、物語バレエの名手と称され、細かく共感できるような感情表現を動きとして描き、踊りの見せ場と演技の重要な部分がごく自然に溶け合う、何度でも繰り返し見たいと思える、心地の良い、そして説得力のあるバレエを得意としている。

ロシア国民に愛されている奥深い作品を、ジョン・クランコがドラマティック・バレエの傑作、20世紀バレエを代表する普遍的な作品へと創り上げた。

今回の講演で、斎藤はオネーギンの振付けについて、「全幕のレッスンに入り、1つ1つの動き全てに意味があり、全く無駄がない振付けだということを痛感した。本当に傑作で、このバレエに関わることは喜びだ。」と語った。



息子さんからいつでも読めるように、と贈られた『エフゲニー・オネーギン』の小さな本（ロシア語）を片手に語る斎藤友佳理。



アレクサンドル・セルゲーヴィチ・プーシキン
1799年モスクワ生まれ。

在学中、詩作に没頭するとともに、当時の自由主義的な西欧思想にも傾倒。1820年初めての長編詩「ルスランとリュドミラ」を発表。その後、叙情詩、政治詩から長編小説、歴史文学、評論など、近代文学のあらゆるジャンルを創作。独自の韻文形式を確立し、ロシア文学の父と言われる。

代表作に「エフゲニー・オネーギン」、「ゴリカサスの虜」、「ボリスゴドゥノフ」、「スピードの女王」ほか。1837年妻に言い寄った近衛土官ダンテスに決闘死するという、奇しくも自らが描いた「エフゲニー・オネーギン」の中のレンスキーと同じ運命をたどった。



ジョン・クランコ

1927年南アフリカ生まれ。英国ロイヤルバレエ団の新進振付家だった

ジョン・クランコは、1961年シュツットガルトバレエ団の芸術監督に就任。まず「ロミオとジュリエット」で大成功を収める。巧みな空間構成による演出と人間的で生き生きとした演技が絶賛を浴び、これを機に、長編文学を言葉のないバレエで語る才能を爆発的に開花させ、「オネーギン」「じゃじゃ馬馴らし」など、登場人物の性格や心理をリアルに描いて観る者を共感させる作品を次々と生み出した。

1973年、2度目のニューヨーク公演から戻ると、45歳の若さで没するが、彼の残した数々の傑作は今なお世界屈指のバレエ団でレパートリーとなり、踊り続けられている。

18年の歳月を経て 奇跡③ 齋藤友佳理がタチヤーナを踊る



Photo: Shingji Hosono. Make up: Ken Satoh. Hair: Yasuko Hosono

ベジャールのインスピレーションをきっかけに、「オネーギン」第3幕の手紙のパ・ド・ドゥを踊ることが実現へと前進したのは91年の世界バレエフェスティバルでのこと。「オネーギン」を踊るなら、初演したマリシア・ハイデに直接習うべきだと、ベジャール自身と東京バレエ団団長が話を進め、その公演のために来日予定であったハイデと彼女のパートナー、リチャード・クラガンがわざわざ予定を早めて来日した。ハイデが持参した衣裳と髪飾りを付け、ゲネプロまで終了した本番当日、「オネーギン」を踊れないかもしれない、というショッキングなニュースが飛び込んだ。「オネーギン」は上演の許諾に

おいて様々な制約があることで知られている。全幕を踊った者でない」と部を取り上げて踊ることが許されないということであった。齋藤は衣裳メイクを済ませ、万全の準備をして許可が下りるのを舞台袖で待っていた。ハイデとバレエ団団長が先方と連絡を取り続けたが、最後まで返事が来なかった。以降も、何度かチャンスはめぐってきたが、いずれも実現に至らなかった。「オネーギン」のタチヤーナを踊ることは、齋藤にとって舞踊人生最大の目標となった。そしてこのたび、東京バレエ団が日本のバレエ団として初めて「オネーギン」を上演する運びとなったが、そこにはもう一つの大きな壁が待っていた。配役は、バレエ団側で決められない、オーデイションに来る人物が決定するということであった。つまり、タチヤーナの役以外になる可能性もあるということである。世界の名立

齋藤友佳理・木村和夫

たるバレリーナも、この役を切望しながらも踊れないという現実があった。

「それでもやる勇気はあるか？」とバレエ団側から聞かれたが、「やる！」と即答したそうである。「最初から選ばれないことを怖がつてやらなかったら100%できない。でも0.1%でも可能性があるならば、自分はその0.1%にかけようと思った。」と言う。ダンサーにとって、良い作品、傑作に携わっている時ほど幸せなことはない。どんな役に選ばれても、この傑作に少しでも携われるだけで幸せ者であるし、今までバレエを続けてきて良かったと思えるのも正直な気持ちであった。

そして2009年12月、キャストینگ決定権を持つリードアンダーソン氏がシュツットガルトから来日し、齋藤は見事タチヤーナの役を手に入れた。ベジャールのインスピレーションからこれまで、なんと長かつたことであろう。でもそれは決して無駄ではなく、意味深い時間であった。若い時に踊るのではなく、人生経験を積んで、表現に円熟味が出てこそ踊れる作品であり、終に回つてきたチャンスというのは、本当に踊る時期なのだ。そして、その思いは観客にも必ず伝わるはずである。2010年5月、齋藤友佳理はいよいよタチヤーナを踊る。(敬称略)

譲り受けた髪飾り

91年世界バレエフェスティバル公演でタチヤーナを踊れなかった(「奇跡③」参照)齋藤友佳理は、借りた衣裳と髪飾りをマリシア・ハイデに返しに行った。その時、「将来あなたは必ず踊ることになるから、これはその時のために取っておきなさい。」と受け取らなかったという。

それ以来ハンカチに包んで大切に保管している。18年の歳月を経て、それを身に付ける日がまもなく来る。

※1 マリシア・ハイデ

ブラジル出身のバレリーナ。クラッコは「目見て女優のような才能を持つことを発見し、シュツットガルトバレエ団劇場幹部の反対を退け、ハイデに大きな役を次々と踊らせた。そしてクラッコが彼女のために作った傑作がこの「オネーギン」である。

※2 モーリス・ベジャール

1927年フランスマルセイユに生まれの振付家。1959年に「春の祭典」がブリュッセルで初演され、その野生的で官能的な肉体系と躍動美の祭典はセンセーショナルな大成功を収めた。以来約50年にわたり、発表した作品は優に200を超え、「ボレロ」、「ジンスキー」、神の道化、「バレエ・オーライフ」など常に時代に向かってメッセージを発信し続け、バレエ界に衝撃を与える多くの作品を世に送り出した。日本でも数々の作品が上演され、特に東京バレエ団とは関わりが深く、同バレエ団のために「ザ・カフキ」「M」が創られ、海外でも公演を重ね、東京バレエ団の名を世界に知らしめることになった。

※3 ジョン・ノイマイヤー

1942年米国生まれの振付家。シュツットガルトバレエ団にてジョン・クラッコに師事しながら振付を学ぶ。現ハンプルクバレエ団芸術監督。「月に寄せる七つの俳句」「時節の色」は東京バレエ団のために振付けられた作品。

※4 イリ・キリアン

1947年生まれ。チエコ出身の振付家。シュツットガルトバレエ団にてジョン・クラッコに師事しながら振付を学ぶ。1977(99年)ネザールランドダンスシアター(NDT)芸術監督。「パーフエクト・コセマシヨ」は、東京バレエ団のために振付けられた作品。



山下公園に面する神奈川県民ホール(写真上)と、館内の公演告知看板(下)

齋藤友佳理 プロフィール

神奈川県横浜市出身。母のもとで6歳よりバレエを始め、ロシアに短期留学を繰り返して、A.メッセレルやM.セモヨノワに師事する。1987年東京バレエ団入団。1992年ロシア公演では『ラ・シルフィード』をボリショイ劇場、マリンスキー劇場などで踊り、「日本のマリ・タリオーニ」との賛辞を受ける。1994年出産後も第一線に復帰。1996年『くるみ割り人形』舞台上で大怪我に見舞われるが、1998年『ジゼル』で復活を果たす。その後も古典作品から現代作品まで幅広いレパートリーをこなし、詩情あふれる典雅な踊りとドラマティックな表現力で多くのファンを魅了しつづけている。

2002年、それまでのダンサーとして、母として、一人の女性としての思いをつづった『ユカリューシャ』を世界文化社より上梓。2005年、平成16年度芸術選奨文部科学大臣賞(舞踊部門)受賞。2009年、バレエ教師の資格を取得するために学んでいた、ロシア国立舞踊大学院バレエマスターおよび教師科を首席で卒業。

様々な奇跡と壁を乗り越えて、今回上演されるバレエ「オネーギン」は、神奈川県民ホール開館35周年、第17回神奈川県国際芸術フェスティバル、そして東京バレエ団創立45周年の記念碑的公演となる。

「地元・横浜にある 神奈川県民ホールは、いつも 観客の皆様からパワーをもらえる特別な会場であり、 私の家でもある！」と語る 齋藤友佳理。

96年、「くるみ割り人形」の公演中、舞台上にて左膝靭帯断裂という大怪我に見舞われ、再起不能とまで言われたが、98年「ジゼル」全幕公演にて見事復帰したのもこの県民ホールであった。

オネーギンあらすじ

田舎の地主の娘タチヤーナは、帝都育ちの洗練された青年オネーギンに憧れ、恋文をしたためる。しかし若くして人生に飽き憂愁に包まれるオネーギンは、タチヤーナや田舎の人々を疎んじ、タチヤーナの妹オリガの恋人でもある、友人レンスキーをつまらぬ諷刺から決闘で殺してしまふ。

オネーギンが失意のうちに去って数年後。將軍クレミンの妻となったタチヤーナと放浪から戻ったオネーギンは、帝都サンクト・ペテルブルグで偶然に再会。オネーギンは成熟したタチヤーナの中に人間としての真の美しさを見出し、熱烈に求愛するが…。

第17回神奈川県国際芸術フェスティバル 神奈川県民ホール開館35周年記念 東京バレエ団創立45周年記念 平成22年度文化庁芸術拠点形成事業

東京バレエ団 オネーギン

2010年
5月23日(日) 15:00開演
(14:20開場)



タチヤーナ 齋藤 友佳理
オネーギン 木村 和夫
主催: 神奈川県民ホール

オリガ 高村 順子
レンスキー 井上 良太
クレミン 平野 玲

神奈川県民ホール 大ホール

全席指定 S席 10,000円 A席 7,000円 B席 5,000円 C席 3,000円 S席ペア 19,000円 学生 2,000円

県民ホールチケットセンター **045-662-8866**
(10:00~18:00)

音楽堂チケットセンター **045-263-2255**
(13:00~17:00月休)

インターネットチケットセンター
<http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc>

チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード 402-146)
e+ (イープラス) <http://eplus.jp> (パソコン・携帯)

※やむを得ず配役に変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承の上チケットをお求めください。出演者変更に伴うチケットの払い戻し、変更は致しかねます。 ※学生券は24歳以下対象。数に限りがございます。
※かながわアーツ倶楽部会員は、Sペア券、学生券除く各席種10%割引。
※S席ペア券、学生券は県民ホール・音楽堂チケットセンターのみお取り扱い。
※就学前のお子様のご入場はご遠慮ください。

(託児サービスのご案内) **045-774-2711** 託児料 **2,000円**
チャイルドサービス遊 (月~土9:00~18:00公演1週間前までに要事前予約)

【東京公演】5月14日(金)~16日(日) 東京文化会館 TEL:03-3791-8888 (NBSチケットセンター)

【交通アクセス】

みなとみらい線 渋谷駅から東横線直通で35分! 横浜駅から6分!

「日本大通り」下車 徒歩約6分(3番出口)
「元町・中華街」下車 徒歩約10分(1番出口)

横浜市営地下鉄
「関内」下車 徒歩15分(1番出口)

JR根岸線
「関内」「石川町」下車 徒歩15分

横浜市営バス ※148系統急行線を除く
横浜駅東口バスターミナル2番のりば
桜木町駅バスターミナル2番のりば
「神奈川県民ホール」下車 徒歩2分

神奈川県民ホール 〒231-0023 横浜市中区山下町3-1
<http://www.kanagawa-kenminhall.com>
神奈川県民ホールは、指定管理者である財団法人神奈川県芸術文化財団が管理・運営を行っています。